



No
Adventure
No
Life

令和元年 9月2日 Vol.8

JICA 海外協力隊 2019年度1次隊

半田 麻実

セネガル最大のお祭り

TABASUKI~犠牲祭~

セネガルに住むほとんどの人がイスラム教徒なのですが、そのイスラム教徒の中で大きなお祭りが行われました。それが、『タバスキ』という、日本語では『犠牲祭』と訳されるお祭りです。8月中旬に行われるこのお祭り、ちょうど半田先生たちがホームステイをしている間だったので、家族と一緒にこのお祭りを祝いました。お祭りのメインは、『①家族と過ごす ②羊を丸ごとさばいて食べる ③新しい服でおしゃれをする』です。このお祭りは、セネガルの大切な文化でもあります。

タバスキの日は、朝から大忙し。男性と女性それぞれ役割がちがいます。
男性は、朝からモスクという場所にお祈りに出かけ、女性は、家のそうじをします。



それが終わると、今度は
男性は羊を丸ごと一頭さばく。
女性はごはんの準備。

ついさっきまで生きていた羊を自分たちの手で全てさばきます。残すところなく調理します。半田先生もつい目をおおってしまいましたが、命をいただくってこういうことなのだと実感しました。命をいただくことに感謝です。

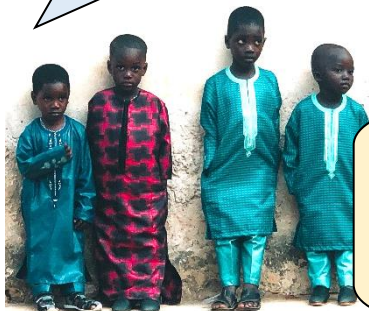


男性たちは慣れた手つきで羊をさばいていきます。子どもも一緒にお手伝い。見て、学びます。



さばいたお肉は、他宗教の家や、お金がなくて羊が買えなかった家などにおすわけします。

子どもたちは近所の家をまわり、おこづかいをもらいます。日本でいう「お年玉」のようでした。



『命をいただく』
いろんなことを考えながらいただきました。こうして人間は生かされている。感謝です。

夜はみんなが新しくつくった服を着て、家族と過ごします。セネガルの民族衣装『タイバース』です。

